

栄光園だより
第124号
2021年7月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
http://www.eikoen.jp/
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

これからの栄光園嘱託医に
求められるものとは

医療法人 松本小児科医院
理事長兼院長 松本 重孝



社会福祉法人 栄光園 賛助会会長
社会福祉法人 栄光園 児童養護施設・
乳児院 嘱託医

1957年頃より私の父・松本常園が社会福祉法人栄光園の嘱託医を務め、92年11月より、私が後を継がせていただきました。それから既に28年以上の月日が経過したことに信じられない思いがします。子どもの頃から名前を知っていて、親子2代で関わりを持たせていただくことになった栄光園を愛する気持ちは、言葉では何とも言い表せないものがあります。

この28年間で、小児科医の果たすべき役割は随分と変化しました。当然ながら、栄光園の嘱託医に求められるものも大きく変わってきました。

長い間、小児科医療の中心は感染症との闘いでした。父が栄光園の嘱託医になった頃には、赤痢や日本脳炎やポリオで、多数の乳幼児が命を落としていました。衛生状態の改善、抗生物質療法、ワク

チンの進歩により、乳幼児死亡率は年々減少したものの、髄膜炎や敗血症を起す代表的な細菌であるHibと肺炎球菌ワクチンの導入が欧米より(前者では約20年、後者では4年)遅れた日本では、2013年に二つのワクチンが定期接種化されるまで年間850人の児が細菌性髄膜炎に罹患し、そのうち5%が死亡してしまいました。94年冬には、乳児院のお子さんのひとりが細菌性髄膜炎に罹患して夜間に低体温(ショック状態)に陥るといふ出来事もありました。別府医療センターにすぐに対応していただき、人工呼吸器のお世話になりました。

その後、定期接種のワクチンも漸く他の先進国並みになり、重症感染症は激減しました。現在では、栄光園嘱託医の役割として感染症の診断・治療の重要性は相対的に低下し、いわゆる発達障害(注意

欠陥多動障害、自閉スペクトラム)への対応が極めて重要な課題になってきたと考えています。入所に至った原因として親による虐待が増えてきたことも大きな問題です。虐待により脳の発達にも障害が生じ、自閉症児と極めて似た症状が生じること(第四の発達障害とも呼ばれます)も知られてきています。

小児精神医学の専門家は、このような子どもたちを育てる施設の多くが大舎制で、幼児から高校生までが雑居しているという環境であることが大問題であると指摘していましたが、2013年より児童養護施設栄光園も小舎制(小規模グループホームとして養育する形式)に変化したのは素晴らしいことだと思います。乳児院も小舎制へ向けて動き出しているのと同じです。ホームのひとつをマツモトホームと名付けていただいたことは光栄です。

私は小児精神・神経について専門的に学んできた者ではありませんが、専門医や発達障害児に関わる多職種の方々と共に連携をしていくためにも、この分野について、エネルギーを振り絞って学んでいかなければならないと思っています。

最後に、虐待、発達障害などの問題を抱えたお子さんたちを悪戦苦闘しながらケアしておられる職員のみならず、敬意を表します。また、栄光園の子どもさんたちの診察を通じて多くのことを学ばせていただいていることに感謝します。

追記:私は中学生のころから、3代目園長であり、プロの作家でもあった故小郷穆子先生の文学の大ファンであることを申し添えます。高校生の時、父の使いとして栄光園へ伺い、初めてお会いしたときはドキドキしました。70代でご逝去されたことが本当に惜しまれます。

グレースホームの集い
“夏の集い”延期のお知らせ

恒例のグレースホームの集いですが、飲食を伴う行事でありますので、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、今回は、開催を見合わせます。現在ワクチン接種が進んでおり、政府の発表では、11月までには国民全体の接種が終了する予定とのことですので、年明けの2月頃に改めて卒園生が集まれる機会を設けたいと考えております。来年ワクチン接種を済ませ、みなさんと楽しい再会ができることを願っております。

子どもの作品
水彩画: カブトムシ

畑のともろこし